

# S・M・C

Shizuoka Medical Communication

## 山田峰子さん 平成28年秋の瑞宝単光章受章

この度、県の推薦でこのような名誉ある賞を頂き、大変光栄に思っております。ご支援くださった皆様に深く感謝いたします。

静岡県立中央病院と総合病院で37年間、大きな病気もせず、2回の出産で約3ヶ月ずつの産休を取りましたが健康で仕事を続けられたことと、病棟の師長として、一看護師として、患者様とご家族様にしっかり寄り添い、患者様がその人らしく生きられるよう、スタッフと一つになってお手伝いしてきたことへのご褒美かと思えます。何よりも人を大切に考えて、ただただ一步ずつ歩んできました。患者様とご家族様からも多くの教えを頂き、今があります。県立総合病院退職後は介護老人保健施設ケアセンター池田の街で、微力ながら、利用者様が笑顔で楽しく過ごせるようお手伝いをしております。

静岡医療コミュニケーション研究会は10年を越えるボランティア活動となりますが、その活動は医療の一環として看護との共通点があり、コミュニケーションの大切さを痛感する場面が多く、大変勉強に

なります。医学部、薬学部の試験で、また病院や施設の職員に日頃の対応のあり方を考えていただく研修会で、模擬患者として医療面接をするのですが、今なお緊張の連続です。最近は記憶力も低下し、メンバーから外されるのではないかと心配しているところですが、いつも元気で笑いの絶えない仲間感謝しています。

看護の仕事が大好きで家庭もかえりみず走ってきてしまい、家族に迷惑も掛けました。私の周りにいて私のことを理解してくださる心の広い上司、仲間、後輩に感謝し、今後は年相応に頑張っていきたいと思えます。出会いに感謝!!

(山田)



瑞宝章は、公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、多年職務をはたしたと認められる功労者に授与される勲章です。

## 市民公開講演会

## みんなの介護保険 ～介護について困っていませんか～

平成29年1月14日、静岡市駿河区小鹿豊田地区地域包括センター相談員の塩澤正子さんを講師に迎え、市民公開講演会を開催しました。

高齢化が進み、2025年には団塊の世代と言われている人達が後期高齢者となり、医療・介護を必要とする人がぐんと増える予想です。介護が必要となった時に初めて向き合うことになる介護保険、保険料を納めている割には知らないことが多いのではないのでしょうか。介護保険ってどんな時に使えるの？ 手続きは？・・・今回はそんな疑問に塩澤先生が分かりやすく楽しく教えてくださいました。

“介護保険は日本の5番目の社会保険である”ことから始まり、介護保険が使えるまでには、①申請する ②ケアマネジャーを決める ③介護認定を受ける ④介護プランを作成する といったプロセスがあり、それぞれの段階の事例を紹介していただき、介護保険の仕組みを知ることができました。

また、高齢者を支える地域包括ケアシステムのお

話も伺い、自分たちが周りから守られていると感じました。そして、今私たちに出来ることは、①健康の維持・介護予防 ②かかりつけ医を決めておく ③ご近所との良い付き合い であると学びました。

最後に、「困った時には最寄りの地域包括支援センターまでお知らせください。」「私のところいつでも相談に来てください。」と心強いお言葉を頂きました。

講演会当日の静岡はこの冬初の雪が舞い散る寒い日でしたが、先生の熱いメッセージで心が温まり、年齢を重ねても安心かなと思えました。

(気田)



## 看護学科学生への演習にご協力いただき

浜松医科大学医学部看護学科臨床看護学 菅野久美

静岡医療コミュニケーション研究会（以下 SMC）の皆さまには、「成人看護学演習」でのシミュレーション演習にご協力いただきました。この演習は、看護学科3年生が、看護の知識、技術、態度、実践のための考え方を総合的に学習する授業の一コマで、重要な看護技術のひとつであるフィジカルアセスメントを習得する目的で行われます。これまでは、学生同士あるいはシミュレーションモデルを用いて演習を行ってきましたが、実際の患者さまへの看護援助とのギャップが課題でもありました。そのため、臨床を忠実に再現した演習の可能性を検討していましたが、そのような中で、以前から医学科で実績のある SMC の皆さまにご相談させていただき、看護学科でのシミュレーション演習を計画することができました。SMC のメンバーには、医療や教育などの経験のある方も多く、授業の準備や打ち合わせでは大変心強かったことを記憶しています。

SP の皆さまには、大腸がん手術直後の患者さまと呼吸困難のある患者さまの2事例に取り組んでいただきましたが、設定された状況が伝わりにくく、ご苦労をおかけしたのではないかと思います。

演習当日は、約60名の学生が個々に SP への挨拶や説明も行い、フィジカルアセスメント、看護援助を実施しました。演習後の学生は、「模擬患者さんと知っていても、頭が真っ白になってしまった」「緊張して覚えていない」「どうしてよいかわからな

くなった・・・」などの感想を述べていました。また、緊張のあまり終了後に安堵の涙を浮かべていた学生もおり、このまま自信をなくしてしまうのではないかと危惧されました。しかし、この学生は、デブリーフィングの際に SP の方から「目をみて話してくれて安心した」「笑顔がよかった」等などの肯定的なフィードバックを受け、客観的に自己の課題を見出せたと発言していました。一度は揺らいだ自信を取り戻せていたようです。

演習から6ヶ月経過した現在、学生は担当する患者さまのもとに躊躇することなくお伺いし、訴えにじっくりと耳を傾け、非言語的な反応にも注目できるようになってきました。また、看護の対象となる人への理解を深め、いのちとその人の生活を支援するための看護実践への考えも深まっています。これらの学生の成長は、緊張感を伴いながら体験したシミュレーション演習の成果とも考えております。

今回、SMC の皆さまとは看護学生への教育を協働して行えただけでなく、これからの医療を担う学生の成長過程を共に見守ることができたように思います。さらに、教員にとって初めての試みであったため課題もいくつかありますが、学生への教育方法としての可能性を見出すことにもなりました。演習にご協力いただけましたことに改めて感謝申し上げます。また機会がありましたら、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 浜松医科大学看護学科の演習に参加して

実習前の学生さんを対象に、看護師育成には欠くことのできない看護介入の演習を行いたいということで SP 要請がありました。

患者さんと日常会話をしながら、同時に患者状態の観察と把握や看護行為を行うことは、経験を積み重ねていくことでスムーズにできるようになりますが、学生には難しいことです。今回は、病室を想定した大部屋で、腹部手術後1病日の患者に離床を促す場面と、肺気腫で呼吸苦を訴える患者介助の場面で7名の SP が対応しました。

SP の体にタッチングしながらコミュニケーションを取る看護行為演習は、SP の私達も初めての体験で緊張感が漂いました。緊張した面持ちで、汗をかきながらも患者目線で優しく声をかけてくれた学生さん、患者に上手く声かけができず、戸惑いな

らも背中を優しくさすってくれた学生さん、患者の傷の痛みを受け止めようと気配りしてくれた学生さん・・・。SP のリアリティー溢れる演技に、学生さんたちも精一杯の力を発揮してくれました。学生さんたちがこの演習を土台とし、不要な不安を持たずに実習に臨める一助になれたのは嬉しい体験でした。（赤堀）



## SMC研修会

平成28年10月30日、岐阜大学医学教育開発センター長の藤崎和彦教授をお招きして、最近のSPの動向などをお話いただきました。

現代社会においては、コミュニケーション能力が重要視されています。また、生涯を通じて学ぶ習慣や主体的に考える力を持ち、予測困難な時代にどのような状況にも対応できる人材が求められています。医学界も例外ではありません。そのため、医学系大学や医療現場ではSPを相手にコミュニケーションを学ぶ授業や試験、セミナーが行われています。

1988年には108名だったSPは、現在では200グループほどに増えています。患者役を外部から招いてセッションを行うことで、学習効果は大きく飛躍しました。

SP演技の役作りでは、相手役医療者の言動を知覚して感情面に反応し、その感情の動きに対する自己知覚が大切です。SPはセッション後に、サポート的な形でのポジティブなフィードバックを行い

ます。大学低学年では基本的対人コミュニケーション能力を、臨床実習前には「何をどのように伝え聴くか」を学びます。しかし、マニュアル的な理解にとどまっている学習者は少なくありません。

研修会当日は医療現場で行われるセミナーの練習が行われ、私は患者家族に対応する看護助手を演じましたが、私自身も相手の言葉に耳を傾け、言葉の裏に隠された感情を洞察し、自分自身の感情をコントロールしながら対応することの大切さを改めて学びました。今後も大学や医療現場でSPを用いた学びの場が広がることを期待し、活動を続けていきたいと思っています。

(横山)



## SPデビュー！

平成27年6月25日に浜松医科大学医学部のPCC-OSCEで模擬患者（SP）デビューをしました。事前練習で患者像や質問に対する応答など細かいところまで確認し、個人練習もして臨んだのに、当日は会場に着くまで緊張し通しでした。

先輩方に「名前と年齢さえ言えば大丈夫だから！」とアドバイスを頂き、本番直前によく落ち着きました。ところが、「髪の毛を触っても痛みを感じる」という設定だったのに、初回名前を言った直後に、額に落ちてきた前髪に触れてしまったのです。SP間で対応に差があってはいけないと肝に銘じていたはずなのに・・・やってしまった！と、すぐさまたかめっ面を作って痛そうな顔をして続行。その後

はなんとか受け答えができてやっと緊張がとけました。

短い休憩中にも控え室で袴田先生や先輩方に相談、確認ができたので、そこからはわりと落ち着いて対応できたかと思っています。しかし、終わった後はあれで大丈夫だったのだろうか、と出てくる出てくる反省点・・・。次の機会に活かそうと思いました。

私自身医療従事者ですが、自分が学生の頃はまだOSCE制度はなく、働いていく中でコミュニケーションの方法を模索してきました。なにかの形で教育に関われたらと仲間に入れていただいたSMCの活動ですが、至らないながらも学生さんの糧となればと願ってやみません。

(秋本)

### ※SPとは・・・

模擬患者：Simulated Patientの略です。SP（エスピー）は、本物の患者と同様の演技ができるように訓練された人のことで、医療関係者の演習で研修者の相手をしめます。また、標準模擬患者：Standardized Patientの意味もあり、試験や評価に用いられます。

### ※OSCEとは・・・

客観的臨床能力試験：Objective Structured Clinical Examinationの略です。OSCE（オスキー）は、日本の医学部、歯学部、薬学部6年制課程の学生が臨床実習に進むために合格しなくてはならない試験の一つです。

### ※PCC-OSCEとは・・・

臨床実習後OSCE：Post-Clinical Clerkship OSCEの略で、臨床実習後に総合的臨床能力を評価する実技試験です。

# 平成28年度 SMCの活動

月 日	活 動 内 容
平成28年 4月6日	新規採用者研修会へのSP派遣 (静岡県立総合病院)
4月17日	平成28年度総会
6月25日	浜松医科大学医学部PCC-OSCE (医学科6年) へのSP派遣
7月15日	基礎臨床講座へのSP派遣 (静岡県立総合病院)
9月24日	静岡県立大学「CRC特論」への講師およびSP派遣
10月19日	浜松医科大学 成人看護学演習 (看護学科3年) へのSP派遣
10月30日	SMC研修会
11月7日	保健所主催の研修会への講師およびSP派遣 (静岡済生会総合病院)
12月5日	保健所主催の研修会への講師およびSP派遣 (清水厚生病院)
12月10日	静岡県立大学薬学部OSCE (薬学部4年) へのSP派遣
12月12日	保健所主催の研修会への講師およびSP派遣 (静岡広野病院)
平成29年 1月14日	SMC主催市民公開講演会 (静岡市中央福祉センター)
1月18日	浜松医科大学 「医学概論II」 (医学科2年) へのSP派遣
1月27日	MEDC第63回医学教育セミナーとワークショップに参加
1月28日	静岡県立大学薬学部新規課題OSCEトライアルへのSP派遣
2月18日	浜松医科大学医学部OSCE (医学科4年) へのSP派遣
2月19日	医療安全認定臨床コミュニケーション養成実習研修会への講師、SP、ファシリテーター派遣 (東京大学)
毎月1回	SMC定例会開催 (静岡市中央福祉センター)

## 今年、東大に入りました！

平成29年2月17日から19日まで、医療安全認定臨床コミュニケーション養成実習研修会が東京大学を会場に開催されました。会を運営する酒井亮二日本医療安全学会理事長から、座学だけではなく実習も行いたいと、当研究会に講師依頼がありました。テーマは『患者理解と患者心理』です。初めは躊躇しましたが、良い機会であると思いお受けして、袴田、齋藤、鈴木の三名で参加しました。私たちは最終日の午後の2時間を与えられましたが、その日の午前中は藤崎和彦先生が講師を務められました。

先に鈴木から当研究会の紹介と、「医療者側からの患者理解と患者の心理」と題して日頃思っている事をお話した後に、医療面接の実習に移りました。

ファシリテーターは袴田先生が、模擬患者は齋藤さんと私が務めました。参加者は常日頃コミュニケーションのスキルアップをはかっている方たちでしたので、積極的な意見交換ができました。

医療面接のシナリオは、術後に抗がん剤治療を勧められた患者と治療薬の服薬を拒否する患者の二つです。対応の難しい事例でしたが、研修者の方々は日常業務で慣れておいでなのか、落ち着いて対応されていました。

東大の正門から入って安田講堂を通り過ぎ、三四郎池を眺めてから附属病院前を歩いて会場入りしました。研修会終了後は赤門をくぐって帰りました。  
(鈴木)

【連絡先】 静岡医療コミュニケーション研究会 代表 鈴木 崇代

〒420-0961 静岡市葵区北3-29-27 TEL 054-247-7277

SMC ホームページ URL <http://www.smc-jp.com/>